

製巡方、牛または馬のものと思われる獣歯・獣骨片など多岐にわたる。また、「長」「太」などの墨書土器も複数確認されている。

木簡は遺物包含層中位やや上から、文字面を下にしわずかに傾斜した状態で出土した。周辺からは土師器杯の小片数点も出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 檜前マ名代女上寺稻肆拾束

宝亀二年十月二日税長大伴国足

(183)×53×5 0.0

上端は欠損しているが下端部は原形を保つ。文字は比較的良好に遺存している。板材は柾目と板目の中間であり木目は傾斜している。下端部は摩耗しているが平坦面はみられず、オりのみの可能性が考えられる。表面はハギトリ状ケズリで、一部カットグラス状ケズリが施される。裏面は部分的なハギトリ状ケズリで、廃棄後生じたとと思われる亀裂が顕著である。成形・調整とも粗雑な感を受ける。

出挙の収納を記録した木簡と推定されるが、『延喜主税寮式』の武蔵国分寺料との関係は定かでない。なお、紀年銘を記したものである。として埼玉県初のものである。

(大熊季広)

今
木簡
名代女上寺稻肆拾束
宝亀二年十月二日
税長大伴国足

木簡研究 第一七号

巻頭言——書は言を尽くさず、言は意を尽くさず——

佐藤宗諱

一九九四年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊十二坪 平城京跡 平城京跡
左京七条一坊十六坪 東大寺 奈良女子大学構内遺跡 高安城関連遺
跡 藤原宮跡 藤原京跡左京七条一坊東南坪 藤原京跡左京十一坊三
坊 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 平安京跡左京四坊一
町 平安京跡左京八条三坊十四町 平安京跡右京八条二坊二町 慈照
寺境内 客坊山遺跡群 大坂城跡 袴狭遺跡 見蔵岡遺跡 有年原・
田中遺跡 梶子北遺跡 曲金北遺跡 伊興遺跡 錦糸町駅北口遺跡
宮町遺跡 前橋城遺跡 荒田目条里遺跡 矢玉遺跡 山王遺跡 大坪
遺跡 中尊寺境内金剛院 花立Ⅱ遺跡 志羅山遺跡 福井城跡 大友
西遺跡 石名田木舟遺跡(1) 石名田木舟遺跡(2) 北高木遺跡 水橋荒
町遺跡 山木戸遺跡 上郷遺跡 陰田小犬田遺跡 米子城跡七遺跡
三田谷Ⅰ遺跡 吉川元春館跡 田村遺跡群 姉川城跡 中園遺跡Ⅲ区
一九七七年以前出土の木簡(一七)

平城京跡左京二条二坊六坪

榎山 明

刻歯簡牘初探——漢簡形態論のために——
新潟特別研究集会の記録

国史跡指定答申になった八幡林官衙遺跡：小林昌一、八幡林遺跡の時代
的変遷：田中靖、古代越後平野の環境・交通・官衙：坂井秀弥、封緘木
簡考：佐藤信、八幡林遺跡木簡と地方官衙論：平川南、討論のまとめ
書評 鬼頭清明著『古代木簡の基礎的研究』

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円

今津勝紀